

令和元年度 自己評価・学校関係者評価書

令和2年3月19日
認定こども園すずき幼稚園

1 幼稚園の教育目標

「自立できる人・たくましい生命力のある人・人に親切にできる人」を目指す人間像として、立腰教育や躰の三原則を基盤に置いた生活習慣を徹底する。又、幼児の持つ可能性をあらゆる場面で発揮できるよう、言語活動や音楽、運動にも力を入れた総合的な遊びを展開する。

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

諸行事の出来不出来を評価対象にするのではなく、平素の保育に於いて園児が楽しく安全に過ごし、かつ能力的に伸びていることが確認できるようにする。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由	学校関係者評価
1 保育の計画性	B	数年間過密だった行事が簡素化された部分もあり、保育者も園児も負担軽減できた。行事や日々の生活指導は計画通り進んだと評価できる。	A
2 保育のあり方 幼児への対応	A	教育目標を高く設定し、幼児の成長を確実に促進できた。また、普段の保育における園児の楽しさを考えた活動ができた。	A
3 教師としての資質、 能力、良識、適正	A	内外からの評価は大変高く、「この園の先生はレベルが高い」とのお言葉も頂けている。	A
4 保護者への対応	A	保護者と職員の雰囲気が大変よい年になった。	A
5 地域の自然や社会との かかわり	A	田んぼ遊びや近隣小学校からの交流受入れ等積極的に実施できた。里山教室なども盛んに行い、自然活動もできた。	A
6 研修と研究	B	園内研修は十分出来た。園外の研修も積極的に参加した。カリキュラムの外部出向研修が例年になく少なかったため、次年度は多く参加し	A
7 外部アンケート	A	全体的には高い評価を受けており、満足頂いている。	A

- * 結果の表示方法
- A 十分達成されている。
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

「ヨコミネ式」というカリキュラムを取り入れていることで、視覚的に能力の向上が確認できることが逆に保育者のプレッシャーになっていた部分が近年あったが、ゆとりを持った生活日課と目標設定で、楽しさを充分考えられる保育生活ができる。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
地域の自然や社会とのかかわり	近隣小学校などとの関わりが増えたが、外の公園などに行く機会をもう少し増やしたい。
研修と研究	カリキュラムに関する出向研修を増やし、スキルアップを目指したい。
保護者への対応	個々の子育て相談に関して適切な対応ができるよう、職員間の情報シェアと意見交換を増やしたい。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

数年間の課題だった職員の負担が少し軽減されたと見て取れる。認定こども園への移行もあって負担が増える部分もあったと思うが、今後も惰性で行事や保育を実施するのではなく、取捨を考慮してほしい。教育の質に関しては非常に高い評価を頂いているので、引き続き質を維持向上してほしい。